【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成17年2月24日(2005.2.24)

【公開番号】特開2003-66399(P2003-66399A)
【公開日】平成15年3月5日(2003.3.5)
【出願番号】特願2001-258213(P2001-258213)
【国際特許分類第７版】
　Ｇ０２Ｆ　1/13
　Ｇ０１Ｒ　1/073
　Ｇ０１Ｒ　31/02
　Ｇ０１Ｒ　31/28
　Ｇ０９Ｆ　9/00
　Ｇ０９Ｆ　9/35
【ＦＩ】
　Ｇ０２Ｆ　1/13　１０１
　Ｇ０１Ｒ　1/073　Ｆ
　Ｇ０１Ｒ　31/02
　Ｇ０９Ｆ　9/00　３５２
　Ｇ０９Ｆ　9/35
　Ｇ０１Ｒ　31/28　Ｋ

【手続補正書】
【提出日】平成16年3月25日(2004.3.25)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
液晶パネルのガラス基板上に所定の間隔をもって列設された第１の幅を有する複数の各電極に電圧を印加して該液晶パネルの検査を行う検査装置において、
プローブ端子用の基板と、
前記基板上に前記電極間の間隔とほぼ同一の間隔をもって列設され、前記第１の幅よりも小さな第２の幅を有する接触領域を有し、非接触領域が前記第２の幅より大きい第３の幅とされたプローブ端子群と
を具備することを特徴とする液晶パネルの検査装置。
【請求項２】
前記プローブ端子は接触領域を越えて延在し、該延在領域は前記非接触領域と共に絶縁体により覆われ、かつ、該延在領域のプローブ端子は前記第３の幅を有することを特徴とする請求項１に記載の液晶パネルの検査装置。
【請求項３】
前記基板のプローブ端子が形成された面と反対面であって、少なくとも前記接触領域と対応する位置に、剛体の押圧部材が設けられていることを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の液晶パネルの検査装置。
【請求項４】
前記接触領域におけるプローブ端子間の間隔は、前記第２の幅の１．５倍～２倍であることを特徴とする請求項１から請求項３のうちいずれか１項に記載の液晶パネルの検査装置。

【請求項５】
液晶パネルのガラス基板上に所定の間隔をもって列設された第１の幅を有する複数の各電極に電圧を印加して該液晶パネルの検査を行う検査方法において、
プローブ端子用の基板上に前記電極間の間隔とほぼ同一の間隔をもって列設され、前記第１の幅よりも小さな第２の幅を有する接触領域を有し、非接触領域が前記第２の幅より大きい第３の幅とされたプローブ端子群を液晶パネルの電極に接触させ、当該液晶パネルの表示状態に応じて、当該液晶パネルの断線又は短絡を検査することを特徴とする液晶パネルの検査方法。